2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	上田 裕司
最終学歴	学　位	専門分野
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科	修士	学校教育学

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

校訓である「真面目」を念頭に置き，教育活動を通じて学生に浸透させる．

（目標）

建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を基盤に，人間の健康に関わる諸問題，また，昨今の激変する学校現場に求められる教員を一人でも多く養成する．

（方針）

教職課程科目の指導を通じて近年の学校運営に関連する事項を確認する．

（計画）

・教職科目である「保健体育科教育法Ⅱ」の講義では，中学校及び高等学校における授業づくりに大きく関わる質の高い「学習指導案」及び「教材・教具」の作成が必須であること．また，指導案作成から模擬授業に発展させ，当活動を起点に保健科教育の指導の在り方や具体的な指導方法について理解を図る．また、「教育実習事前及び事後の指導（中・高)」を通じて意欲的で充実した教育実習ができるように，筆者が長年経験してきた中学校現場の教育の進め方や在り方について理解を図るとともに、時代に適う教師とはいかにあるべきかについて考えさせる．

・「生徒指導論」においては，筆者の学校現場での経験に基づき，様々な事例を例にして，今後の「生徒指導の在り方」を探求する．

・「特別活動研究」においては新学習指導要領の内容を踏まえ，演習形式を用いて実際の学級活動の運営方法を学ばせる．

・「基礎演習」では，「個」の個性の伸長を図るために，学生が提出したレポートの添削と必要に応じて個人面談を施す．

・「総合演習」では，「オンリーワンを，一人にひとつ」をコンセプトとして保健体育教員を目指す学生に対応できるように既存の指導プログラムを用いながら，保健体育の基礎的知識の構築を図る．

○担当科目（前期・後期）

（前期）

スポーツ実習、教育実習事前及び事後の指導（中・高)、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、生徒指導論、教採特講（専門教養（保健体育))、教採特講（2 次試験対策）

（後期）

スポーツ実習、インターンシップ B、特別活動の指導法、保健体育教育法Ⅱ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、学校保健、教採特講（専門教養（保健体育))、教育実習Ⅰ（中・高)、教育実習Ⅱ（高等学校）

○教育方法の実践

・保健体育教育法Ⅱでは，受講学生全員に学習指導案の作成を求め，その指導案に基づいて模擬授業実践に発展させる活動を行った．その際，リフレクションカードを用いて学生が行った模擬授業における「教師行動」「授業展開」など全 7 項目の客観的記述から「優れた授業」とは何かについて検討させた．同時に，各学生の模擬授業実践に関する課題及び授業観の変容についてまとめさせながら授業力向上を目指した取組を行った．

・特別活動研究においては，学級担任が行う学活のテーマを設定させ，模擬授業として授業実践を経験させた．また，模擬授業後にブレインストーミングを行い，当該模擬授業の有効性を検証する取組を行った．

・総合演習では前期は健康教育に関わる「6 つの危険行動」の概念について指導を行った．後期は，保健科教育及び体育実技実習を行い，前期及び後期の振り返りとしてレポート作成を行わせた．

○作成した教科書・教材

・生徒指導論（前期）は，全 8 回に授業である．「生徒指導提要」に準拠して，各回のテキスト及び事後レポートの課題作成を行った．

・保健体育教育法，特別活動研究に，学校保健などにおいてはスライドおよびスライドに準拠したワークシートの作成

・総合演習Ⅰ・Ⅱでは，活動シートの作成を行った．

○自己評価

本学の学生によるアンケートからの評価では，学生アンケートの評価において教職担当科目全般の回答は，概ね良好な回答を得ることができた．同様に実技を伴う「スポーツ実習」の評価項目の回答率は，肯定的回答が高率であった．すべての授業において概ね良好な授業が実現できたと考えられる．

後期の保健体育教育法の授業評価は，「予習復習」に関する質問項目以外の項目において高率の肯定的回答であることから，学生の当授業の満足度はかなり高いと捉えている．今後においては，私が担当している教科が教職免許の取得に関わる教科が多数であるため，学生の理解度を綿密に確認しながら実践することが大切であると考えている．

Ⅱ　研究活動

○研究課題

学校健康教育に関わる「薬物乱用防止教育の在り方と考え方」の考察

○目標・計画

（目標）

当研究は「第 5 次薬物乱用防止五か年戦略」に掲げられている「大学等の学生に対する薬物乱用防止のための啓発教育」の在り方について大学生への薬物乱用防止教育の今後のあり方を検討するものである．

なお，当研究は 2018 年から進めてきた研究の延長線上にあり，筆者の先行研究である中学校教員の調査結果に基づき再度，質問紙を作成し上述の研究テーマにおける大学生の意識の実態と薬物乱用防止教育のニーズを明らかにしようとするものである．

（計画）

調査の解析が済，投稿（日本学校保健学会 OR 東海学校保健学会）予定．

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・榎本智司，石鍋浩，上田裕司他　「中学校全面実施につながる移行措置実践ガイド」　第 3 章：新学習指導要領を生かした保健体育科〈保健〉の授業例，pp. 82 - 83.　教育開発研究所 2018 年.

・入谷仁士，上田裕司，萩原芳彦，笠原賀子，鬼頭英明，黒川修行，西端充志，真下真澄新.『新中学保健体育 教師用指導書 「教授ノート保健Ⅲ」 第 4 章 pp. 88-91，pp94-98. 株式会社 学研教育みらい 2015 年.

・荒木田美香子，井戸晶子，石坂友司，井上明子，入谷仁士，上田裕司他 24 名.『新・中学保健　体育「新・中学保健体育 教師用 指導書」 朱書き編」』 第 4 章 pp118-119，pp120-121. 株式会社 学 研教育みらい 2015.

・入谷仁士，上田裕司，萩原芳彦，笠原賀子，鬼頭英明，黒川修行，西端充志，真下真澄.「新・中学保健体育の研究 研究編保健Ⅲ」 第 4 章 pp130-137，pp138-145. 株式会社 学研教育みらい 2015 年.

（学術論文）

・上田裕司「学校保健計画に位置付けた薬物乱用防止教育の在り方の検討　- 中学校教員による質問紙調査の分析結果ら - 東邦学誌 第 49 巻 第 2 号：pp41-58 2020 年.

・上田裕司，西岡伸紀.「中学校教員の薬物乱用防止教育に対する意識の実態把握及び関連要因」兵庫教育大学と大学院同窓会との共同論文集 第 7 号 pp23-29　2017 年.

・鈴木千春，上田裕司，香田由美，永田智子，鬼頭英明.「中学校保健分野の医薬品の学習におけるデジタル絵本教材活用の効果」 兵庫教育大学学校教育学研究 第 29 巻 pp51-58. 2016 年（査読あり）.

・上田裕司，清水貴幸，鬼頭英明，西岡伸紀.「中学校保健学習の準備，生徒の反応，使用指導方法等に関する保健体育科教員の意識　ー質問紙調査の小単元別の分析からー」 学校保健研究 第 57 巻 5 号 pp. 227-237　2015 年　（査読あり）.

・上田裕司.「学習指導要領による中学校・高等学校の医薬品の学習」 学校保健研究 第 57 巻 5 号 pp. 409-411. 2015 年　（査読あり）.

（学会発表）

・上田裕司，尚爾華.「薬物乱用防止教育に対する中学校教員の意識と関連要因」- 質問紙調査の分析結果から - 2019. 東海学園大学 第 62 回 東海学校保健学会講演集 p31.

・尚爾華，上田裕司.「中国都市部大学生の身長，体重，体格指数及び理想体型に関する調査」2019. 東海学園大学 第 62 回 東海学校保健学会講演集 p43.

・阿倍健太郎，谷川尚己，山田淳子，上田裕司.「中学 3 年生における人型ロボット（Pepper）を活用した保健学習に関する研究」2018. 京都教育大学 第 65 回 近畿学校保健学会講演集.

・谷川尚己，阿倍健太郎，上島智，山田淳子，上田裕司.「大学教員と学校薬剤師が連携した小学校での保健学習」2018. 京都教育大学 第 65 回 近畿学校保健学会講演集.

・山田淳子，阿倍健太郎，谷川尚己，上田裕司.「小学 6 年生における人型ロボット（Pepper）を活用した保健学習に関する研究」2018. 京都教育大学 第 65 回 近畿学校保健学会講演集.

・上田裕司，西岡伸紀，鬼頭英明.「中学校教員の薬物乱用防止教育に対する意識」2017. 和歌山県立医科大学 第 64 回 近畿学校保健学会 講演集.

（特許）

（その他）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

・日本学校保健学会　・日本保健科教育学会　・東海学校保健学会

○自己評価

これまでに「学校における薬物乱用防止教育の在り方について」講演及び啓発教育を行ってきたが，一方で，2018 年から進めてきた研究として「学校保健計画に位置付けた薬物乱用防止教育の在り方の検討」に関する論文を東邦学誌に掲載することができた．その他に，今年度予定していた教職課程履修学生を対象にした,「教育実習」関連の研究は予定通り進まなかったため次年度の第 1 の課題とする．

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

所属する委員会（中高教職支援委員会・教職支援センター運営委員会）において求められる役割を果たすことができた．

（計画）

所属する委員会（中高教職支援委員会・教職支援センター運営委員会）が円滑に運営できるように自己の役割を果たすことができた．

○学内委員等

教職支援センター運営委員会、中高教職課程部会

○自己評価

担当教科（教育実習研究）と関わりの深い中高教職支援委員会及び教職支援センター運営委員会の一員として教員採用試験の現状と学生への支援方策を検討することができた．今年度の教育実習は，教員を希望する学生が昨年度より減少している．その主な要因の一つとして，教員採用試験の現役合格の懸念が影響していると考えられるが，今後の課題として一人でも多くの現役合格者を出すことができるように，さらに学生個々の個性に応じた支援方策と充実した個別指導を行う．

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

所属する学会及び教育関連団体と連携して学校教育における保健科教育及び健康教育の推進を行うことができた。

（計画）

・愛知県教育委員会保健体育課からの要請を受け，2022 年度（令和 4 年度）の学校保健講座の研修講師として「学校教育における今後の薬物乱用防止教育の在り方と進め方」と題して 8 月 4 日に愛知県内の約 100 名の教員（小・中・高・養護教諭）を対象に講義を行う．

・芦屋市教育委員会から要請を受け，2022 年 9 月 29 日に行われる教員集中研修会の指導助言者と役目を果たすことができた．

・薬物乱用防止指導員（厚労省）として愛知県においても薬物乱用防止啓発活動を行うことができた.

〇学会活動等

日本学校保健学会，日本保健科教育学会などオンライン参加.

〇地域連携・社会貢献等

・薬の適正使用協議会教育部門オブザーバー（2018 年から現在に至る）

・厚生労働省薬物乱用防止教育中堅指導員（2014 から現在に至る）

〇自己評価

所属する学会活動は，例年より開催形態が緩和され，対面参加を果たした．また，愛知県教育委員会保健体育課から 2023 年度の「学校保健講座」の講師の依頼を受け，引き受けることとした.

これまでの研究（学校における薬物乱用防止教育関連）を基盤にして一 定の成果を残すことができるように，さらに自己研鑽する必要がある.

V　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

今年度の担当科目（保健体育教育法Ⅱ・特別活動研究・生徒指導論・教育実習事前及び時の指導・学校保健など）における指導内容の充実を図るとともに，昨今の学校現場の教育事情を把握し，時代に適う教員の養成に関わる課題の明確化と検討を行う.

VI　総括

今年度は，コロナ感染症拡大の影響がこれまでより少なかったため，対面形式での授業が実行でき各教科とも一定の成果があったと考えている．また，指導担当科目の学生からの評価も肯定的であり，学生の心に残る授業が実現できたと考えている.

次年度（2023 年度）は，大学教員として最終の年度になるため，これまでに積み上げてきた実績を学生に還元したい.

以　上